



Data

監督: パオロ・ソレンティーノ
 出演: トニ・セルヴィッロ/エレナ・ソフィア・リッチ/リッカルド・スカマルチョ/カシア・スムトゥニアク/ファブリツィオ・ベンティヴォリオ/ロベルト・デ・フランチェスコ/ダリオ・カンタレッリ/アンナ・ボナイウート/ジョバンニ・エスポジート/ウーゴ・パリアイ/リッキー・メンフィス

■ショートコメント■

◆イタリアの元首相シルヴィオ・ベルルスコーニを主人公にした異色のドラマが登場！日本でも、2019年11月20日に安倍晋三総理が戦前の桂太郎内閣を抜き、戦前・戦後を通して2887日という憲政史上最長の内閣になったが、さてベルルスコーニ政権は？

ウィキペディアによると、彼は挫折を繰り返しながらも4度政権に就き、計9年間も首相の座にあったようだ。しかし、彼の汚職問題や性的スキャンダルの数々は？それを見ていると、安倍首相の清廉潔白ぶりが対照的(?) だが・・・。

◆「LORO」とは、「彼ら/彼女ら」を意味する言葉らしい。本作前半は、女性を斡旋することによってベルルスコーニに取り入ろうとする男セルジョ・モツァ（リッカルド・スカマルチョ）が登場し、さまざまな策を弄する姿が描かれる。さしずめ、この男が「LORO」の代表だ。

本作では、イタリア最高の権力者であるこのベルルスコーニを巡って、妻のヴェロニカ・ラリオ（エレナ・ソフィア・リッチ）を含む多くの「LORO」が登場し、ベルルスコーニの人間関係が描かれる。しかし、政治家は本来「公」の部分での勝負だから、私は基本的にその私生活に興味がない。したがって、私生活（のスキャンダル）を中心としたベルルスコーニを巡る「LORO」も、私には本来どうでもいいのだが・・・。

◆11月10日に観たギャスパール・ノエ監督の『クライマックス』（18年）は、冒頭のダンスシーンこそ見事だったが、多くのダンサーたちがLSD入りのサングリアを飲んで踊り狂う姿はバカバカしくて見るに耐えないものだった（『シネマ46』未掲載）。それと同じように、ベルルスコーニの大邸宅の中でくり広げられる大パーティーは、そりや楽しそうだ

が、ホントに現役の首相がこんなことをやっていたの？もしそうだとしたら、そのバカバカしさに唾然！

元首相を主人公にしたこんな映画が堂々と劇場公開されることを、イタリアの国民はどう考えているの？いくら陽気な国民性の国とはいえ、こりゃ怒らなくちゃ！

2019（令和元）年11月27日記